



寒さの中で固く閉じていた木の芽たちがいつの間にか緩んで、世界が少しずつ柔らかな色をまとい始めました。桜の時期まではもう少し。やがて一斉に花開く力を、あの枯れ木のような細い枝のどこに蓄えているのでしょうか。

最終学期を迎え、9年生は、卒業プロジェクトの準備に追われています。子どもたちもやはり、見た目こそ大きく変わらずとも、その体内に大きな成長のエネルギーを満たしていることでしょうか。本当の春がもうすぐそこまで来ています。

【畑づくりの授業とESDとの関連性】



シュタイナー学校では、3年生で「暮らしと仕事」という学びがある。狩猟採集、農耕、酪農、収穫したものでパンを作ったり、また人間が生み出してきた生活に必要な道具についてなど、人類が歩んできたくらしをなぞる学びを行う。

農耕についての学びは具体的には、畑や田んぼでの作業になる。畑は、近隣の農家の土地を使わせていただき、農家の方の指導を受け作業を行っている。田んぼは、森の中にあがり、森・里山の愛護会の方々の田んぼをお借りし、田植えから収穫まで指導を受けている。

こうした地域と結びついて学習を進めていく一方、校庭に小さな畑を作り作物を育てている。ここでは、校庭での畑作りについて話していきたい。

5月、校庭の一角に子どもたちを集めて作業を始めた。畑を作る予定の場所を取り囲んで立っている子どもたちに、

「みんなは昔の人だ。畑を作ってみよう。」

子どもたちは

「???」「スコップは?」

「昔はスコップなどなかったから手でやろう。」

手で固い土と取り組むがうまくいかない。校庭にある石や木の枝を使うことを思いつき、それらで作業を続けた。道具を使うことでゆっくりだが、手で行うより作業ははかどる。でも遅々たる歩み。次の日も、またその次の日も同様に作業を続けた。少し掘っては土を手でほぐし。1週間毎日作業を続け耕された面が広がってきた。子どもたちの表情も明るくなる。次の1週間は、より積極性が出て来る。毎日の作業を楽しみにするようになる。3週目には小さな畑がほぼ耕さ

れ、土もほぐされ地面に空気がはいりやわらかくなる。最初の地面とはかなり違い、土をさわることもたちの表情に喜びがあふれる。目がきらきらと輝いていた。4週目によやく鍬という道具を使い、その意義も体験し畑を完成させた。

最初から鍬を使うことなく、3週間の間、手や棒で作業を続けることで、これから種をまく土に対する愛着が強く湧いたように感じている。じっくり時間をかけておこなったことは子どもたちの体と心にしっかりと刻印されている。

こうした作業を行う場合、「早くシャベルを使いたい」や「シャベルがあるのになあ」という作業をしながらない子どもがでてくるのではないかとの懸念もあろう。今回のわたしの体験ではそういったことはなく、全員が積極的に学びに取り組むことができた。それはいったいなぜかと想定された疑問に対して考えてみた。そこでの自分なりの答えをいくつか述べたい。

まず、担任は毎日100分間の授業を行う。その中では、歌を歌い、体を動かす時間を設ける。子どもは歌を歌うこと、そして歌に合わせてリズムカルに体を動かすことが大好きである。畑作りをした5月には、たねまきの歌を歌い、鍬を入れる詩を唱えた。

種まきの歌

たねをまこう みんなのはたけに（円になって立つ）
なにをまこう なにをまこう（円を小さくし肩をくんで相談する仕草）

にんじん にんじん まきましよう（再び元の円にもどる）
たねをまこう つちをたがやし
神様のめぐみ 育てます

鍬入れの詩

母なる大地に鍬を入れ
固い大地を耕します
暗い大地のその中に
光の力が差し込むように
ひとりひとり力をこめます
光と水と空気のねどこで
いのちが再び目覚めるよう
ねがいをこめて耕します
母なる大地を耕します

作業を始める前に学びと関連した歌を歌い、詩を唱え、生き生きとした時間をつくることで、学びとの結びつきを深めることができる。

次に、畑を耕す作業を一カ月間、同じ時間帯に行ったこと。毎日毎日繰り返す事で、作業と規則的に向い合うことができたこと。こどもたちは、次の日も作業を行うことがわかっている、「今日もたがやすぞ。土をやわらくするぞ。」と楽しみにやってくる。

一定の期間、作業を継続できることも実りを生むように思う。

こどもたちは7年生で植物、8年生で化学：植物と酸素と二酸化炭素、また9年生の化学：光合成を学ぶ。3年生での体験は、こうした高学年での自然科学の学びのしっかりとした土台となるに違いない。

上述したように3年生のこどもたちは、土と取り組み、土にいとおいさを感じていくようになった。畑や田んぼの作業を通して、土だけではなく、光や風や雨への感謝を学んでいく。体を動かし歌を歌い、詩を唱え、継続的に学びを続けることで、学びの内容が、こどもの頭だけでなく、体と心まで、深く沁みこんでいくことができたように感じる。そして、こういった活動が明日の世界を支える力になっていくと考えている。

(3年生担任 横山義宏)

*この記事は、ユネスコスクールの担当教員である現3年生クラス担任の横山義宏先生が、サステナブルスクール報告書に寄稿したものを転載しました。

ESD(Education for Sustainable Development) とは …

地球の持続可能性が世界共通の課題となり、これまでの社会発展の価値観を教育によって変容させることを目指して提案されたのが、ESD = 持続可能な開発のための教育です。ESDの推進を2005年に国連が採択し、ユネスコが中心となって推進しています。ESDでは、気候変動や環境問題のような課題を中心に、地球と社会の問題をトータルで解決していく柔軟で総合的な学びが求められています。そのESDのもっとも重要な担い手がユネスコスクールなのです。

サステナブルスクールとは …

日本中に広がったユネスコスクールの質をさらに高めていくために、文部科学省は全国から良質なESDの実践校を公募し、3年間のESD重点校形成事業を進めてきました。採択された24校はサステナブルスクールと呼ばれています。横浜シュタイナー学園はその中の1校です。

<講座「惑星の人間と自然における働き」に参加して>

ご好評いただいている連続講座 多面的シュタイナー考察 ⑦が、2月10日に開催されました。



2月10日に、津田塾大学名誉教授理学博士の丹羽敏雄先生をお招きし、多面的シュタイナー考察 ⑦「惑星の人間と自然における働き」講座が開催されました。

講座は、土星、木星、火星、太陽、金星、水星、月、それぞれの惑星の、人間と世界における働き、その性質や力を、対応する7つの代表的な金属のわかりやすい例え話も交えながら進められました。

どの惑星も、その作用も、とても深くこの世界に関わっており、私がこれまで点と点として得てきた頭でっかちな情報や、学びや気づきが、納得とともにひとつの大きな流れに繋がりと、惑星の持つ力、その奥深さ、宇宙の摂理に感嘆するばかりでした。しかしながら、それは遠く離れたところで起こっていることではなく、日々とても身近に在るものなのだと思うと、意識を持つことで世界の見え方が様変わりする、そんな感動が私の中で湧き起こりました。

私はこの学園に娘が入学するまで、惑星についてほぼ知識がなく、各曜日に対応する色があるということも、頭だけで取り入れた知識と実践でしかありませんでした。何故、金曜日が緑色なのかとまでは考えにも及びませんでしたが、そんな親をよそに、すべてを受け入れる力を持った第1七年期を通して、娘は各曜日と対応する各色の繰り返しの中にどっぷりとひたり、そこには惑星からの力も及び、各曜日をまるごと吸収していったようです。

昨年秋ごろに娘がふと「今日が何曜日なのかはわかるけれど、ママはどうして今日が何日ってわかるの?」とつぶやいた疑問に、これまで考えてみることもなかった「今日が何日なのか」という新たな問いに、心底衝撃を受けました。この問いは、頭で生きることを優位にしてきた私の中でまだ未解決で、娘を通しての今後の学びです。

丹羽先生が、講座冒頭にも、そして最後にも一貫しておっしゃられていたこと。「すべては問いから始まる。普段から問題にしないところに問題が隠れている。意識魂のこの時代、問うことができる人間、問う教育、問う練習が必要。」という言葉が、何より心に残り、そのことを私自身に問い直す講座となりました。

(2年生保護者 高旗晶子)

【7～9年生合同体育 タグラグビー】

「学園の校庭は狭いですが、子どもたちは十分な運動ができるのでしょうか。」入学説明会等で幾度となく聞かれる質問ですが、いえいえ、とんでもありません。2月のある日、学校近くの萱場公園には、高学年生徒たちの元気な声が響いていました。

.....



練習後はいよいよ6チームの総当たり戦です。「チーム・ミッツ」vs「チーム・生き生き乳酸菌」、「チーム・ゴンザレス」vs「チーム・丸メガネ」など、中学生のネーミングセンスに笑ってしまいましたが、試合する姿はいたって真剣！タグラグビーとはいえ、なかなかの迫力です。見ている他のチームからも応援の声が上がります。人一倍大きな声援！と思ってふと見ると、応援にやってきた担任の先生たちでした。子どもたちの雄姿に熱が入ります。



学園では、地域の体育館や、萱場公園の広場を運動場代わりにお借りして、体育の授業をしています。現在、7～9年生は合同で体育を行っており、タグラグビーに取り組んでいます。

タグラグビーはラグビーと違い、タックルの代わりに、相手選手の腰に付けたタグを取り、相手を止めます。激しいタックルがないので、男女混成のチームでも安全にプレーできます。現在では、学校体育等でも広く導入されているそうです。

合同体育を指導するのは、3年生担任の横山先生。タグラグビーは社会性を育めるスポーツだと、横山先生は言います。7～9年生縦割りで、2学期にチームを組んでからメンバーは固定。先生は、9年生にはあえてリーダーシップをとるように指導していました。同じメンバーで練習や試合を行っていくので、回数を重ねるうちに、チームワークが良くなっていくそうです。

また、ラグビー同様に、横か後ろにしかパスが出せないの、パスをうまく回すには、声をかけ合わなければなりません。コミュニケーションを良くすることが大事です。一般的にタグラグビーは5人でプレーすることが多いそうですが、先生はあえて4対4で試合をさせています。それによって、全員参加の意識が高まり、一人ひとりがボールに触る機会が増えているようでした。

萱場公園まで行くのもチームメンバーと一緒に。到着したらチームごとにウォーミングアップ。先生のお話後、試合開始まではまたチーム練習です。練習内容は、自主性を持ってチームごとに考えていました。どのチームも学年の垣根を越えて、生き生きと楽しそうでした。そういえば、最近、私の7年生の娘の話にも、たびたび上級生たちの名前があがるようになりました。マイペースな子ですが、こういう機会を得て、上級生とも楽しく交流できているのだなと思いました。

「運動能力が高い子がいるチームが、強いとは限らないんですよ」と横山先生。確かに、リーダーがうまく指示を出してコミュニケーションが取れているチームは強いように思えましたが、強い子も周りの子たちにも配慮しチームプレーを心がけているように見えました。熱血リーダーと化して下級生を導く男子や、負けず嫌いスイッチが入って猛ダッシュする女子など、普段とは違った一面が見えるのも面白かったです。

9年生は卒業間近。その姿を見てきた7,8年生は、来年新しく加わる下級生をリードして良いチームを作っていくことでしょう。寒い日の体育見学でしたが、小さな学校だからこそその良さを見ることができて、心は温かくなりました。

(広報の会 7年生保護者 中島美穂)

インフォメーション

～詳細やお申込方法については学園サイトをご覧ください～

3学期修了の会 及び 9年生オイリュトミー発表

ご希望の方に公開しています。

日にち：3月14日(木)

時間：12:00～14:00

場所：都筑公会堂

* 参観は大人対象となります。

お子さんの参加はご遠慮ください。

ご希望の方は、学園事務局までお申し込みください。

連続講座

多面的シュタイナー考察 ⑧ 「自然科学入門」

～アブラナ科から見える植物の世界～

日時：2019年3月18日(月)

午前の部 10:00～12:30

午後の部 13:30～16:00

(午前・午後通しての内容になります。なるべく通しでご参加ください。)

会場：霧が丘校舎

参加費：4500円 (NPO会員 4000円)

午前(午後)のみ 2500円 (NPO会員 2000円)

講師：ピリオ・ドニー 【ぼっこわば耕文舎】

ご支援ありがとうございます。
大切に活用させていただきます。
(順不同・敬称略)

- ◎ ご寄付・・・由良九里香(神奈川シュタイナー子育てフェスタ)、
石井幸子(神奈川シュタイナー子育てフェスタ)、長井純子、
二期生保護者有志、山下里美、星の金貨、加藤洋子、宮地陽子

心より感謝申し上げます。

NPO 会員募集

横浜シュタイナー学園の活動趣旨に賛同し、活動への参加、支援を希望される方は、どなたでもNPOの会員になれます。会員は総会への参加の他、紀要冊子「野ばら」(年1回発行)とニュースレターをお送りします。また、学園主催の各種催しに会員価格で参加できます。

また、賛助会員も同時に募集しております。

<入会申し込み> 詳細は学園事務局までお問い合わせください。

☆ 星の金貨より ☆

スクールショップ星の金貨は公開講座や各種催しの際はもちろん、平日の学園の開いている時でしたら、どなたでもご利用いただけます。お気軽にお立ち寄りください。事務室にお声掛けください。

お問い合わせ e-mail:hoshi-kinka@freeml.com

ブログ <http://hosinokinka.blog100.fc2.com/>



お問合せ、お申込み先

横浜シュタイナー学園事務局

Tel&Fax: 045-922-3107 e-mail: gakuen-info@yokohama-steiner.jp

【会費・ご寄付等お振込先】

郵便振替： 00260-0-130702

加入者名：特定非営利活動法人横浜シュタイナー学園

ゆうちょ銀行：店番029 支店名029店(セコム119店)当座013702

横浜シュタイナー学園

～Newsletter 第118号～

2019年2月26日発行

編集： 広報の会

発行： NPO 法人 横浜シュタイナー学園

<https://yokohama-steiner.jp>

〒226-0016 横浜市緑区霧が丘3丁目1-20

TEL/FAX 045-922-3107

※ 掲載内容の無断転載をお断りします